

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和 7 年度 第 1 回相模原市総合計画審議会		
事務局 (担当課)		政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 3 (直通)		
開催日時		令和 7 年 6 月 2 5 日 (水) 1 9 時～2 0 時 1 5 分		
開催場所		相模原市役所本庁舎本館 2 階 第 1 特別会議室		
出席者	委 員	8 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	6 人 (政策部長、ほか 5 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		(1) 総合計画進行管理について (2) その他		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり

田加井政策課長の進行により議事に入った。

(1) 総合計画進行管理について

事務局より 1 次評価の結果、2 次評価施策の選定等について説明を行った。

(牛山会長) 事務局より、庁内で実施した 1 次評価の総括及び本審議会で審議の対象となる施策の進行管理について説明があった。

本日審議する事項は、2 次評価対象施策の選定、成果指標を設定していない施策を評価対象とする場合の評価方法の 2 点となる。まず、2 次評価対象施策の選定について議論を進める。

重点テーマは評価必須とのことであるため、その他 7 施策程度を選定する必要があるが、委員の皆様よりご意見をいただきたい。

(北島委員) 評価対象としたい施策は、No. 23「首都圏南西部における広域交流拠点の形成」、No. 24「市街地整備の推進と拠点の形成・活性化」、No. 29「持続可能な力強い農業の確立」、No. 36「廃棄物の適正処理の推進」、No. 37「水源環境・森林環境の保全・再生・活用」、No. 45「市民と行政のコミュニケーションの充実」である。未評価である施策のうち、話題になりそうなものを選んでいく。成果指標がない施策の評価方法についてはまだ考えていない。

(牛山会長) 他の委員の皆様はいかがか。一人ずつご意見をいただきたい。

(石戸委員) まだ検討しているところではあるが、No. 3「幼児教育・学校教育の推進」、No. 20「都市機能の維持・充実と計画的な土地利用の推進」、No. 29「持続可能な力強い農業の確立」、No. 36「廃棄物の適正処理の推進」、No. 39「生物多様性の保全と活用」に関心がある。また、No. 45「市民と行政のコミュニケーションの充実」、No. 47「戦略的なシティプロモーション」は、私自身関りがある。知見がありそうな施策や、内容的に関連しそうな施策をピックアップした。

(隅河内委員) できれば「目指すまちの姿」から満遍なく、1 施策ずつ選定できれば良い。例えば、目指すまちの姿Ⅱは、地域福祉、生活困難者、高齢者に対する施策をすでに評価しているため、No. 9「障害のある人の地域生活の支援と社会参

加に向けた取組の推進」を評価したいと考えている。また、十分に評価できていない目指すまちの姿Ⅳからは、No. 23「首都圏南西部における広域交流拠点の形成」、No. 24「市街地整備の推進と拠点の形成・活性化」を評価した方がよいと考える。目指すまちの姿Ⅴからは、No. 39「生物多様性の保全と活用」もしくは、No. 37「水源環境・森林環境の保全・再生・活用」に関して、特別緑地保全地区の利活用などに対する評価、さらに、目指すまちの姿Ⅵでは、No. 45「市民と行政のコミュニケーションの充実」か、その他施策でAⅠを活用した視点に関するものを評価したい。相模原市ではAⅠを活用した取組を試行的に実施していると考えているため、どこかの施策にそういった視点が入っているのではないかと考えている。

(牛山会長) 今の意見にあったAⅠとは、この施策と決めているわけではなく、AⅠによる取組を含んでいる施策ということか。

(隅河内委員) そうである。どの施策に該当するのか詳細は不明だが、該当する施策があるのなら選定したいと考えている。

(横田委員) 成果が出るまでに時間を要するのではないかとという施策を中心に考えており、少し早めに状況を確認した方が良いのではと思う施策を挙げる。No. 3「幼児教育・学校教育の推進」、No. 13「人権の尊重・男女共同参画の推進」、No. 20「都市機能の維持・充実と計画的な土地利用の推進」、No. 29「持続可能な力強い農業の確立」、No. 34「環境を守る体制の充実」、No. 39「生物多様性の保全と活用」、No. 47「戦略的なシティプロモーション」である。

(前田副会長) これまで評価対象になっていない施策をみると、指標がない、あるいは指標の数が少ないものが多いと見受けられる。私自身が考える優先順位の高い順に挙げると、まずはNo. 29「持続可能な力強い農業の確立」である。以前から当審議会においても、旧相模原市だけではなく、旧町に対する施策に力を入れて考えるべきではないかと申し上げている。やはり農業は、旧町の比率が高いため、是非とも対象としたいと考えた。次にNo. 3「幼児教育・学校教育の推進」である。今後の若い世代を育てていくという観点からも重要ではないかと考えた。次にNo. 13「人権の尊重・男女共同参画の推進」の特に男女共同参画についてである。あまり良い指標があるとは言えないが、対象とすべきではないかと考えた。また、No. 24「市街地整備の推進と拠点の形成・活性化」についても一度は取り上げるべきではないかと考えた。

(金子委員) No. 3「幼児教育・学校教育の推進」について、埼玉県が英語教育に力

を入れていると聞き、相模原市の状況が気になっている。No. 11「医療体制の充実」について、高齢者の方は毎日のようにどこかの医者に通っていると話を聞くため、こういった医療体制を持っているのかと考えた。また、先ほどの意見と同じく男女共同参画について No. 13「人権の尊重・男女共同参画の推進」、No. 25「国際的なビジネス拠点の形成と新たな社会経済の仕組みの構築」を挙げる。特に、最も取り上げたいと考えたのは No. 36「廃棄物の適正処理の推進」であるが、実家内の廃棄物を処理するために3社ほど業者に見積を依頼したところ、そのうち2社が廃棄するだけで150万円という結果であった。もう1社は40万円であり、その違いは産業廃棄物の処理について許可を受けているかどうかであった。相模原市は、自分で市の粗大ゴミ受け入れ施設に持ち込めば、比較的安く多くの物を捨てるのが可能だが、車を持っていない人は運ぶことが難しい。戸別収集だと1個あたり400円～3,600円であるため、数が多ければ高額になってしまう。こういった経験から関心を持っている。No. 47「戦略的なシティプロモーション」については、AIを使った施策であるのか気になっている。

(山岸委員) どの施策も積極的に評価したいという考えであるが、個人的な興味と1次評価の結果を見て、これで良いのかと強い関心を持っているのは、No. 15「消防力の強化」である。その他は、皆さんが挙げていただいた意見に賛同する。

(牛山会長) 他の委員から挙げた意見の中で、優先的に選定したいものはあるか。

(山岸委員) No. 13「人権の尊重・男女共同参画の推進」である。その他は、この施策と決めているわけではないが、自然との共生に関するものであり、目指すまちの姿Vからいずれかと考えている。

(牛山会長) 委員の皆様から意見を伺った限りでは、挙げた方が多かった施策は、No. 3「幼児教育・学校教育の推進」、No. 13「人権の尊重・男女共同参画の推進」、No. 29「持続可能な力強い農業の確立」である。最終的に調整するが、まずはこの3つの施策について、優先度が高い、委員の関心が高いものとして選定する。

また、隅河内委員の意見にあったように、「目指すまちの姿」から1施策程度ずつ選定すると考えると、6つの目指すまちの姿のうち、1つの項目からは2施策選ぶことになる。

次に挙げた方が多かった施策は、No. 24「市街地整備の推進と拠点の形成・活性化」、No. 36「廃棄物の適正処理の推進」、そして、No. 39「生物多様性の保全と活用」、No. 47「戦略的なシティプロモーション」となる。これらを選定した場合、ちょうど7施策となるが、それで良いかどうか議論いただきたい。

(牛山会長) 私自身の意見としては、いずれの施策も委員の皆様のご意見にあったように重要であると考えている。相模原市の医療体制に関する施策について関心はあるが、またの機会としたい。

仮に先ほど挙げた7施策を選ぶとすると、目指すまちの姿Ⅰ、Ⅱから1施策、Ⅲがなく、Ⅳ、Ⅴから2施策、Ⅵから1施策となっている。Ⅲからの選定がないが、これについてはいかがか。

(前田副会長) これまでは、各目指すまちの姿から、必ず1施策以上を選定していたか。

(事務局) これまでは、目指すまちの姿を概ね網羅するよう選定いただいている。配布資料にある施策一覧表に各施策の評価年度を記載しているため、ご参考にしていただきたい。

(牛山会長) 目指すまちの姿Ⅲからの選定を考えると、今意見が挙がっているのはNo. 15「消防力の強化」であるが、いかがか。

(横田委員) 8施策選定することは可能か。

(事務局) 現在、未評価が21施策あるため、今年度より三か年かけて評価を実施いただくとすると、バランスを鑑みて7施策と提案させていただいている。

(横田委員) 目指すまちの姿Ⅳ、Ⅴは、未評価の施策が多く残っているため、今回2施策ずつ選定しても良いのではと考えている。減らすと最後にまとめて評価することになる。もし削るのであればⅤからにし、最も多く残っているⅣからは2施策選定するのが望ましいのではないか。

(牛山会長) 三か年かけて最終的に全施策を評価することになるため、今回Ⅲから選定しないということも考えられる。

(隅河内委員) 最終的にはすべて評価することになるが、今の時期に評価した方が良いという優先順位がある。そのため、一つの目指すまちの姿から複数選定することや、選定しないものがあることは仕方ないのではと考える。

(前田副会長) Ⅲはもともと施策の方が少ないため、1年置いてもやむを得ないと

いう考えも成り立つのではないか。

(牛山会長) 現在の皆様のご意見を踏まえると、No. 3「幼児教育・学校教育の推進」、No. 13「人権の尊重・男女共同参画の推進」、No. 24「市街地整備の推進と拠点の形成・活性化」、No. 29「持続可能な力強い農業の確立」No. 36「廃棄物の適正処理の推進」、No. 39「生物多様性の保全と活用」、No. 47「戦略的なシティプロモーション」の7施策となる。

事務局に伺うが、先ほど意見のあったA Iについて、戦略的なシティプロモーションではA Iに関する内容が含まれているのか。

(事務局) 現状、A Iは庁内業務に対して活用していく方針である。関連する施策としてはNo. 44「効率的な行政サービスの提供」が該当し、昨年度評価をいただいている。

(牛山会長) そうであれば、A Iの問題というよりは、戦略的なシティプロモーション自体について評価するという事でよろしいか。

(牛山会長) それでは、今年度の審議会では先ほど挙げた7施策について2次評価を行うこととする。事務局から意見はあるか。

(事務局) ご審議いただいた結果であるため、事務局としても今年度の2次評価対象施策は、選定いただいた7施策で進めていきたい。

(牛山会長) 続いて審議すべきは、成果指標を設定していないNo. 24「市街地整備の推進と拠点の形成・活性化」について、どのように評価を行うかという点である。これに関してご意見はあるか。

(山岸委員) 繰り返しお伺いすることになるかもしれないが、そもそもなぜ成果指標が設定されていないのか。よろしければ再度お聞かせいただきたい。

(事務局) No. 24 は、市内の区画整理事業に関する施策であり、区画整理事業の場合、地域や地権者との調整・合意形成が重要となり、数値として成果指標を設定することが、計画策定時点では難しかったということが理由として挙げられる。

(牛山会長) 2次評価をするにあたり、新たに指標とすべきものを審議会から求めるということか。

(事務局) もしくは、施策の中で取り上げている4つの区画整理事業について、各事業の進捗状況を踏まえてご評価いただく方法も考えられる。

(牛山会長) それは、4つの区画整理事業について、整備目標と達成状況のような情報を追加で提出いただくということか。

(事務局) 本施策は、取り組みの方向として2点ある。まず、「1 産業を中心とした新たな拠点の形成」は区画整理事業を指しており、新たな市街地の形成を行って産業集積を図るものである。具体的には、A&A地区、当麻地区、鵜野森地区などでの事業が挙げられる。次に、「2 良好な市街地環境の形成」は、中心市街地に関する整備であり、橋本、相模原、相模大野の3拠点に関するまちづくりである。この1と2を合わせた指標が設定しにくいという背景があったものと考えている。

ご審議いただいている成果指標については、できれば、1と2で分けた指標を事務局から提案させていただきたい。

(牛山会長) 承知した。こういった計画、進捗状況になっているか伺わないと評価することは難しいと考える。

(前田副会長) 1次評価シートにある「施策全体の評価」には、それぞれの事業について取組を実施した年度などが記載されている。つまり、個別の事業単位で、着手年度や完了年度を含めた目標を立てていると思われる。そういった目標を記した資料と、進捗状況を記した資料を提出いただければ、一定の評価が可能であると考えている。

(牛山会長) 計画があり進捗状況を把握することはできるが、地元同意や地元への影響が大きいのと考えられ、現総合計画策定段階では、成果指標として設定することができなかったという理解で良いか。

(事務局) そのとおりである。

(牛山会長) 今回、計画や進捗状況等を提供することは問題ないのか。

(事務局) 現段階ではスケジュール等が公表されているため問題ない。

(牛山会長) 現段階で公表されているスケジュールがあり、それに対してどのくらい進んでいるか提示できるということで良いか。

(事務局) そのとおりである。

(石戸委員) 進捗状況に対して評価する方法も一つだが、こういった指針で整備を進めていったのかという基準をみて、それが妥当であったか判断した方が、相模原市としての方向性が、私たち市民が客観的な立場からみて妥当であったかどうか判断できるのではないか。その方が、今後の区画整理事業に対しても役立てることができるのではないかと考える。

(牛山会長) 計画がどのくらい達成されているかというよりも、質的な評価を行うということか。

(石戸委員) そうである。進捗は事業者や環境面での遅れなどもあると考えられるため、中身を評価する方が意義があるのではないか。難易度は高くなると考える。

(北島委員) 1次評価シートにある「施策全体の評価」に記載されている内容は、やるべきことをやったという結果が書かれているという印象である。進まなかった事業に対して、行政としてどういった対応を行ったかという取組を教えていただくことで、それに対する評価を行うことができると考える。できなかったことについてどういった課題があったのか、それに対して行政はどう対応したのか、その評価を審議会として行うことができる。

(横田委員) 都市建設局はKPIをきちんと持って実施していると考えている。昨今の建設事業の事情として、人材不足や資材高騰など様々な背景のもとで停滞していることも含めて、予算化したものがどれくらい動いているのかという状況は、KPIとして数字で出していただくのが妥当ではないかと考える。件数でもスケジュールでも構わないと思うが、何らかの形で、数値なり、客観的な指標で見せていただく方が良いのではと考えている。

(牛山会長) 委員よりいろいろな意見をいただいているが、指標として提示できる内容について事務局としてはどう考えるか。

(事務局) いただいたご意見のとおりであると考えてるが、各事業でこういった指標を提示できるかは、事務局として一度持ち帰らせていただき、各事業担当課も含

めて検討させていただきたい。

(前田副会長) 冒頭の事務局からの説明にあったように、まず事務局案として資料を提出していただいた後、こちらから質問する期間がある。そこで、追加で提出してもらいたい資料についても依頼することができるため、そういったやり取りを経て、最終的に評価をしていけば良いのではないかと考える。これまで成果指標を設定していない施策は評価していなかったため、一度評価を試みるのが良いと考える。

(牛山会長) ここで確認できることとして、それぞれの事業について公表されている目標があるため、それに対してどのくらい達成されたかという結果は提示することが可能という認識でよろしいか。また、追加で、委員より意見のあった本質的な評価や、進捗に関する地元への働きかけなどについても、できれば事前に提出いただけると良い。ただ、事前の提出がない場合でも、審議会の場において担当課に対しては委員より意見が出ると考える。

まずは、成果指標に代わるものとして事務局から提出いただくこととお約束いただく。プラスアルファの資料は提示いただけるものがあれば事前にいただくということではよろしいか。

(隅河内委員) 区画整理と中心市街地の両方をカバーすることや、スピード感の異なる各区画整理事業を評価することは難しいと思うが、審議会としても指標がないと評価することは難しいため、最もわかりやすい指標をピックアップしていただくのが良いのではと考える。一方で、担当課とのやり取りの中で指標を見出していくという方法もあるのではないかと考える。

(牛山会長) 委員の皆様、おおよその方向性はよろしいか。

それでは、2次評価対象は、No. 3「幼児教育・学校教育の推進」、No. 13「人権の尊重・男女共同参画の推進」、No. 24「市街地整備の推進と拠点の形成・活性化」、No. 29「持続可能な力強い農業の確立」、No. 36「廃棄物の適正処理の推進」、No. 39「生物多様性の保全と活用」、No. 47「戦略的なシティプロモーション」の7施策とし、重点テーマ No. 1～3 とあわせて今年度の審議会にて評価する。

また、No. 24 は成果指標が設定されていないため、それについて追加資料を提出いただくことについて事務局に確認した。

以上の点について、ご異議ないか。

(委員一同) 異議なし。

(2) その他

事務局より、新しい地方経済生活環境創生交付金の効果検証について、概要を説明した。

以 上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	牛山 久仁彦	明治大学政治経済学部教授	会長	出席
2	前田 成東	東海大学政治経済学部政治学科教授	副会長	出席
3	隅河内 司	田園調布学園大学人間福祉学部教授		出席 (Web)
4	横田 樹広	東京都市大学環境学部環境創生学科教授		出席
5	中西 泰子	相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科教授		欠席
6	山岸 絵美理	大月市立大月短期大学経済科准教授		出席
7	石戸 篤	公募委員		出席
8	金子 京子	公募委員		出席
9	北島 正一	公募委員		出席
10	土屋 春香	公募委員		欠席